



おか もと ひろ み
岡 本 裕 巳

分子構造研究系分子構造学第一研究部門 教授

東大の博士課程を中退し1985年から分子科学研究所助手を5年務めた後、東大助手、助教授を経て、2000年11月より分子研に舞い戻って来てしまいました。10年前とは分子研も岡崎もだいぶ変わりましたが、以前お世話になった数名の教官・技官・事務官の方々と再会できたことを、大変嬉しく思っています。ときどき楽器がうるさいかもしれませんが、大目に見てやってください。出張演奏承ります(!?)。



おか もと きち こ
岡 本 佐知子

分子制御レーザー開発研究センター 事務補佐員

平成12年12月よりレーザーセンターでお世話になっております。科学とは無縁の私ですが、分子研という環境のもと多くのことを学んでいけたらと思っております。まだまだ分からないことばかりで、皆さまにはいろいろとご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしく願いいたします。



みなみほうじょう はる な
南坊城 春 奈

分子集団研究系物性化学研究部門 事務補佐員

大阪府立大阪女子大学卒業。学生時代は金属薄膜の物性研究をかじりました。分子研で物性化学部門の事務補佐員の仕事をさせていただく中で、みなさんのお話を聞きながら物性研究の多様性と深遠さに多少なりとも触れることができ、日々楽しく生活しております。今後ともご指導並びにご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



なが せ しげる
永 瀬 茂

理論研究系分子基礎理論第一研究部門 教授

大阪大学大学院博士課程修了後、ロチェスター大学博士研究員、オハイオ州立大学博士研究員、分子研技官、横浜国大助教授、同教授、都立大教授、同大学院教授を経て、平成13年4月に着任しました。幾つかの異なる場所で研究や教育を経験してきましたが、分子理論と分子計算に興味をもっています。現在新しい環境に慣れるのに奮闘しています。よろしく願いします。





ふる かわ こう
吉 川 貢

分子構造研究系分子動力学研究部門 助手

平成13年3月大阪市立大学大学院理学研究科で学位を取得。同年4月より助手として加藤立久助教授のグループでお世話になります。これまでは、磁性集合体（強磁性薄膜，分子性磁性体）の共同的磁気特性をESRをもちいて研究してきました。こちらではW-band ESRのメリットを最大限に生かした研究をしたいと思っています。よろしくお願ひします。



ふじ やま しげ き
藤 山 茂 樹

分子集団研究系物性化学研究部門 助手

2001年3月東京大学大学院理学系研究科修了後、4月より現職。学生時代は核磁気共鳴法をもちいて銅酸化物伝導体の電子物性の研究を行ないました。現在は中村敏和先生のもとで、磁気共鳴法を用いた有機導体の電子物性の研究に取り組んでいます。無機物と有機物では電子相関を決定づけるパラメーターの大きさの違いから物性が大きく異なり、同じ磁気共鳴法でも見え方が全く異なってきたりして、僕にとっての新奇な現象を楽しんでいます。



やま の い よし のり
山野井 慶 徳

錯体化学実験施設錯体触媒研究部門 助手

平成13年4月より錯体化学実験施設・錯体触媒研究部門に助手として着任をいたしました山野井慶徳でございます。私はこれまでに4つの研究室にて研鑽を積んで参りました。この度、分子科学研究所に着任して5つ目の研究室となりました。現在は、効率良く分子変換を行うことができる新規な化学種の開発などに興味を持っており、任期修了までには何とか一つの新分野を築いていきたいと思っております。



わ だ とおる
和 田 亨

錯体化学実験施設錯体物性研究部門 助手

平成13年3月総合研究大学院大学数物科学研究科博士後期課程修了。4月より錯体化学実験施設錯体物性部門田中晃二教授グループの助手に着任いたしました。助手としては新参者ですが、分子研での研究生生活は4年目となります。現在は錯体化学の分野を中心に研究を行っていますが、分野にとらわれない自由な発想を身につけ、自分ならではの科学を見つけ出したいと思ひます。よろしくお願ひします。



まつ お つかさ
松 尾 司

錯体化学実験施設錯体物性研究部門 助手

この4月から川口博之先生のグループで研究しています。よろしくお願ひします。平成11年3月筑波大学博士課程化学研究科修了。学振特別研究員を経て同年6月より筑波大学化学系（先端学際領域研究センター）助手。これまでは有機ケイ素化合物のアルカリ金属錯体の研究をしていました。今後は周期表を広く見据えた錯体化学を展開したいと考えています。趣味は音楽です。出身は北海道です。



こみやま まさ はる
小宮山 政 晴

極端紫外光科学研究系界面分子科学研究部門 教授

1972年に沼津高専を卒業して以来、静岡大学工学部、東北大学大学院、カリフォルニア大学バークレー校大学院、コーネル大学大学院と、学位をとるまで4つの大学をわたりあるきました。1980年に東北大学工学部に就職し、山梨大学教育学部、工学部を経て、今年度より2年間分子研にお世話になることになりました。工学系の出身で、理系分野との近接遭遇はバークレーのCollege of Chemistry以来ですが、このような異分野遭遇のなかから新しいものが生まれることを願っています。



おく たいら こう し
奥 平 幸 司

極端紫外光科学研究系界面分子科学研究部門 助教授

1988年3月名古屋大学博士課程修了後、日本学術振興会特別研究員、IMSフェローを経て1991年名古屋大学理学部助手、1993年千葉大学工学部へ転任、1998年同大学自然科学研究科助教授。4月に流動部門に着任しました。有機薄膜の表面および界面の物性に関する研究を行ってきました。分子研はIMSフェロー時にいろいろお世話になったところであり、とても懐かしいです。多くの研究者からいろいろな刺激を受けることができる環境を十分に生かして研究を行っていきたく、考えています。分子研ではUVSOR-BL8B2で主に実験をおこないますのでよろしくお願ひします。



くほその よし ひろ
久保園 芳 博

極端紫外光科学研究系界面分子科学研究部門 助手

九州大学大学院理学研究科博士課程（化学専攻）修了。学振の特別研究員を経て、岡山大理学部で助手をやっていました。本年4月に界面分子科学（流動）研究部門の助手として赴任して参りました。これまで、フラーレン系物質の構造・物性を放射光を用いたX線吸収およびX線回折と、他の分光学的手段や輸送測定により研究してきました。本部門では、フラーレン・ナノチューブ系をベースにしたナノメータサイズの科学を展開する予定です。よろしくお願ひいたします。





ちえー 隆 基

理論研究系分子基礎理論第一研究部門 非常勤研究員

平成13年3月に東京大学工学部の博士課程を修了し4月からIMS Fellowとして働かせてもらうことになりました崔と申します。出身は韓国で来日して今年で4年目です。今までは理論の開発及びポルフィリン系化合物の研究をしてきました。化学の興味深い問題を理論及び実験とのインタープレイによって解いていきたいと思えます。よろしくお願ひします。



ふじ さき ひろ し

理論研究系分子基礎理論第二研究部門 非常勤研究員

平成13年3月東京大学大学院理学系研究科博士課程を修了し、現在、中村研究室にお世話になっている者です。博士課程では「非断熱遷移における多次元効果」という問題を研究していました。中村研でも引き続き、非断熱遷移の研究や、それを生かした多次元多電子状態系のコントロールの問題に取り組みたいと思っています。趣味はジャズ、ボサノバ、売れ線狙いでないポップスなどを聞くことです。よろしくお願ひいたします。



と やま なみ き

分子構造研究系分子動力学研究部門 非常勤研究員

平成13年3月に東京工業大学理工学研究科博士課程を修了し、4月から現職。これまでは常磁性金属を含む超分子系の光励起緩和過程の研究を行ってきました。分子研では加藤先生のもとで磁気共鳴による金属フラレン包摂錯体の磁氣的性質の解明を中心に研究を行っています。休日には大学時代に始めたアルトサックスの練習場所を探索中です。どうぞよろしくお願ひします。



まつ もと た き

極端紫外光科学研究系界面分子科学研究部門 非常勤研究員

平成11年3月に信州大学大学院工学系研究科博士後期課程を修了後、横浜の旭硝子株式会社に2年間勤務し、11年ぶりにこのような形で実家のある岡崎に戻ってくる事となりました。分子研では、新たな光触媒系の構築を目標とした研究を行います。毎朝、母校岡崎高校の制服を懐かしく眺めつつ、当時のような新鮮な気持ちで仕事に臨んでゆければと思っております。宜しくお願ひいたします。



しら さわ のぶ ひこ
白 沢 信 彦

分子物質開発研究センター分子配列制御研究部 非常勤研究員

昨年12月に東京工業大学総合理工学研究科で学位を取得し、3月まで東工大・資源化学研究所で学振の博士研究員として勤務した後、4月より鈴木敏泰先生のグループでお世話になっています。鈴木グループでは有機EL素子や、トランジスタに用いる有機半導体の合成研究を行っています。自他共に認めるサッカージャンキー。トトの当り、お教えします。皆様、どうぞよろしくお願ひ致します。



しば とみ かず たか
柴 富 一 孝

錯体化学実験施設錯体触媒研究部門 非常勤研究員

平成13年3月名古屋市立大学大学院薬学研究科博士後期課程修了。同4月より魚住研究室でお世話になっております。水中不斉有機合成の開発研究を行っております。どうぞ宜しくお願いします。



やま ぐち つよし
山 口 毅

理論研究系分子基礎理論第一研究部門 リサーチ・アソシエイト
(理論研究系分子基礎理論第四研究部門 平田グループ)

私は平成12年7月に京都大学大学院理学研究科化学専攻(廣田研)で博士号を取得し、平成13年まで京都大学化学研究所(中原研)で日本学術振興会特別研究員として研究を行ってまいりました。今年4月から、分子研平田グループで、分子性液体の輸送現象に関する理論的研究を行う予定です。よろしくお願ひします。



こ すぎ けんたろう
小 杉 健 太 郎

電子構造研究系基礎電子化学研究部門 リサーチ・アソシエイト

平成9年九州大学理学研究科修士課程修了。平成13年総合研究大学院大学数物科学研究科博士後期課程修了。4月から、引き続き、西先生の下で研究を行うことになりました。これまでは、芳香族分子やカルボン酸のクラスターについて研究してきましたが、今年度以降は、遷移金属を含んだクラスターについて、研究を行います。より幅広い知識を習得し、新しい世界を切り開けるよう努力したいと思います。今後も、よろしくお願ひします。





さい とつ すすむ
斎 藤 晋

理論研究系分子基礎理論第三研究部門 客員教授

専門は物性理論です。密度汎関数法を中心に、研究対象と目的に合わせた種々の研究手法を用いています。研究対象は、主にクラスター・フラーレン・ナノチューブとそれらの固体相です。物性解明のみならず、新物質設計を視野に入れた研究を進めています。励起状態を記述する手法も研究中です。分子研では、普通の東工大キャンパスから離れる機会に、新たな研究展開を目指します。



しも い ゆき ひろ
下 位 幸 弘

理論研究系分子基礎理論第三研究部門 客員助教授

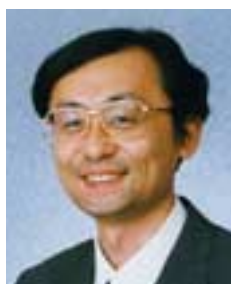
本務先は産業技術総合研究所というこの4月にできた研究所で、つくばに勤務しています。私は、京都大学理学研究科を修了の後、科学技術特別研究員を経て、電子技術総合研究所に入所しました。電総研を含む工業技術院の研究所が統合、独立行政法人化してできたのが産総研です。これまで、主に導電性共役高分子などの低次元電子系の電子、光物性に関して理論的に取り組んできました。この機会に、いろいろな方とdiscussionやcollaborationができればと思っております。よろしくお願いいたします。



あ く つ ひで お
阿久津 秀 雄

分子構造研究系分子構造学第二研究部門 客員教授

昭和47年東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻博士課程単位取得退学、同年大阪大学蛋白質研究所助手、昭和60年横浜国立大学工学部助教授、平成3年より教授、平成12年大阪大学蛋白質研究所教授。溶液および固体NMRを用いて、生体エネルギー変換系、情報変換系タンパク質の構造と機能の関連について研究している。



か とつ れい ぞう
加 藤 礼 三

分子集団研究系分子集団研究部門 客員教授

1984年に東京大学大学院理学系研究科博士課程を修了。その後、東邦大学理学部化学科(小林速男先生の研究室)の助手・講師、東京大学物性研究所の助教授を経て、1999年より現職(理化学研究所分子物性化学研究室主任研究員)。大学院の修士課程まではヘテロポリ酸のNMRや結晶構造解析を行っていましたが、博士課程から分子性電気伝導体の開発研究を始め、現在に至っています。



小川 琢 治

分子集団研究系分子集団研究部門 客員助教授

大阪府生まれ。京都大学博士課程を修了後、愛媛大学理学部、九州大学有機化学基礎研究センターを経て再び愛媛大学理学部に戻り、現在に至っています。1999年から科技団さきがけ研究者を兼任、2000年から郵政省通信総合研究所職員を併任しています。バルクで見える有機物の物性が、単分子ではどのようなものだろうと言う点に興味があり、有機合成、ナノリソグラフィー、SPMで対象に迫りたいと思います。



堀 洋一郎

極端紫外光実験施設 客員助教授

名古屋大学工学研究科博士課程を修了、1987年より高エネルギー加速器研究機構放射光原研究系で光源リング(PF)の真空を担当しています。放射光施設にとっては最先端の実験研究に直結する性能向上が急務の趨勢にあり、スタッフの方々と協力してUVSOR高度化のための改造、開発研究に取り組む所存です。PFの高輝度化以来またまた加藤政博先生に扱き使われることになりましたが、目標は勿論PF以上(ちと小さいか?)です。



時 任 宣 博

錯体化学実験施設配位結合研究部門 客員教授

宮崎県出身。大学は博士課程修了まで東大。その後、筑波大、東大、九大を経て、平成12年4月より京大化研勤務。高周期元素を含む新規な結合様式の化学(平たく言えば重い元素の化学)を研究しています。決して全国を網羅する気はないのですが、この度縁あって今までに経験のない中京地区の分子研にお世話になることになりました。これまでの勤務先同様、人との出会いを大切に、研究交流の中から新しい研究分野の開拓ができればと期待しております。



鬼塚 清 孝

錯体化学実験施設配位結合研究部門 客員助教授

平成4年大阪大学大学院理学研究科博士後期課程修了。大阪市立大学工学部助手、同講師、大阪大学産業科学研究所助手を経て、平成10年より同助教授、現在に至ります。専門は有機金属化学で、特に有機金属錯体を利用した高分子合成に関する研究を中心に行っています。趣味は山歩きですが、最近はおっぱら家族と麓でのキャンプを楽しんでいます。よろしくお願ひします。





きのした かず ひこ
木 下 一 彦

統合バイオサイエンスセンター 教授

生まれは豊川市ですがすぐ引っ越しました。1974年東京大学理学系大学院単位取得退学。学振奨励研究員、東大研究生、米国ジョンスホプキンス大学医学部ポスドク、理化学研究所研究員、慶應義塾大学理工学部教授を経て今年4月から三河人になりました。といっても建物ができるまで川崎で研究を続けます。一分子生理学（光学顕微鏡下でたんぱく質分子機械の働く仕掛けを探る）を目指しています。趣味は皮肉・嫌みと読漫画、スキー。横浜に妻1人男子3人。よろしく願いいたします。



よし おか し ろう
吉 岡 資 郎

統合バイオサイエンスセンター 非常勤研究員

（関連領域研究系関連分子科学第一研究部門 渡辺グループ）

平成13年3月に京都大学大学院工学研究科博士課程を修了し、この4月より渡辺芳人教授のもとで研究を行っております。学生時代から分子研で実験をさせていただいたことがあり、静かな雰囲気の中で研究に没頭することに慣れていました。現在はその思いが果たせて大変満足ですが、逆に働きすぎて自分を見失わないよう、マイペースで努力していこうと考えております。

ちなみに、欧州の機械類（カメラ、バイクなど）が好きです。



おお た たけ ひろ
太 田 雄 大

統合バイオサイエンスセンター 非常勤研究員

（分子構造研究系分子動力学研究部門 北川グループ）

平成12年3月、京都大学大学院工学研究科分子工学専攻博士後期課程修了。平成13年3月まで、日本学術振興会特別研究員（PD）。2月から統合バイオサイエンスセンター、北川研究室にてお世話になっております。これまでは、金属酵素の触媒反応機構について、量子化学的および錯体化学的に研究してきました。これからは、タンパク質高次構造変化によるアロステリック効果の発現や情報伝達機構について、時間分解共鳴ラマン散乱により研究してゆく予定です。自分の生涯の研究目標を定められるように努力したいと思います。よろしく願い申し上げます。



ま き じゅん
真 木 淳

計算科学研究センター 非常勤研究員

平成11年3月、北海道大学大学院理学研究科博士課程修了後、金沢大学の博士研究員を経て、4月1日から電子計算機室の青柳先生のグループでお世話になっております。密度汎関数法を用いて反応のダイナミクスや励起状態の研究を行っていきつもりです。音楽を聞くのが好きで特にチャイコフスキーや70年代のものをよく聞きます。どうぞよろしくお願い致します。



り 李 すよん 秀 栄

理論研究系分子基礎理論第一研究部門 学振特別研究員

平成13年3月に立教大学大学院理学研究科を修了し、4月から学術振興会特別研究員として永瀬茂先生のもとで研究をさせていただいています。主に、水和クラスタの構造や反応性に関する研究を量子化学的手法を用いて行っています。分子研に来て以来、毎日とても貴重な時間を重ねています。素晴らしい環境を生かし、楽しく良い研究をしていければと思います。今後ともよろしくお願い致します。



おおつか わだ あきら 大塚 (和田) 章

統合バイオサイエンスセンター 学振特別研究員

(相関領域研究系相関分子科学第一研究部門 渡辺グループ)

平成13年3月に名古屋工業大学大学院博士後期課程修了。同年4月より渡辺芳人教授のもと、学振特別研究員として研究に励むこととなりました。これまでは金属酵素モデル研究における遷移金属 - 活性酸素錯体の構築と機能発現について研究を行ってまいりました。分子研では、より広い視野と深い専門的知識や技術を身に付けられるよう精進したいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。



こ いずみ たけ あき 小 泉 武 昭

錯体化学実験施設錯体物性研究部門 科学技術振興事業団派遣職員

平成10年3月東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了、理化学研究所・基礎科学特別研究員を経て4月1日よりCREST研究員として田中晃二教授のグループでお世話になっています。これまでは触媒反応に関連したd - ブロック、f - ブロック遷移金属錯体の構造および反応性に関する研究を行ってきました。分子研では金属錯体による二酸化炭素の還元的活性化に関する研究を行う予定です。今後ともよろしく申し上げます。



おお つ ひで き 大 津 英 揮

錯体化学実験施設錯体物性研究部門 科学技術振興事業団派遣職員

平成13年3月に大阪大学大学院工学研究科博士課程を修了し、この4月から科学技術振興事業団の研究員として田中晃二先生の所でお世話になることになりました。恵まれた環境の中で様々な研究に耳を傾け、多くの方々と交流し、自らの研究の幅を拡げてゆきたいと思っております。皆さんにいろいろとお世話になるかと思いますが、その際にはどうぞ宜しくお願い致します。





ふじ はら てつ あき
藤原 哲 晶

錯体化学実験施設錯体物性研究部門 科学技術振興事業団派遣職員

滋賀県出身。平成13年北海道大学大学院理学研究科博士課程修了。4月から田中晃二先生の研究室でお世話になっています。これまではモリブデンポルフィリン錯体の研究を行ってきました。分子研では“役に立つ金属錯体”の合成を目指した研究を始めています。設備の充実した環境で、多くのことを吸収したいと考えています。機構のサッカー部“ラジカルズ”に入部しました。よろしくお願いいたします。



つづ い かな こ
筒井 香奈子

錯体化学実験施設錯体物性研究部門 科学技術振興事業団派遣職員

平成13年3月日本大学大学院総合基礎科学研究科博士前期課程を修了し、同年4月より田中晃二教授のグループでお世話になっています。これまでは触媒の反応特性について研究を行ってきました。

設備や人材等、めぐまれた環境の中で様々な技術や知識を身につけていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



まつ もと よし てる
松本 剛 昭

電子構造研究系電子状態動力学研究部門 特別協力研究員

平成12年3月東北大学大学院理学研究科博士課程後期を修了後、この4月より鈴木俊法先生のもとで研究をさせて頂いております。これまでは水素結合クラスターの振動分光に関する研究をしてきました。現在は、分子集合体における非断熱動力学的実時間観測を目標として研究を行っています。多くの方々、そして数々の刺激的な研究と触れ合いながら、楽しく研究を進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



なか むら り え
中村 理 枝

技術課 研究支援推進員（広報委員会担当）

京都大学大学院理学研究科修士課程修了。その後3年余り、神戸製鋼所電子技術研究所でダイヤモンド薄膜の研究に携わりました。4月に広報委員会担当として採用されましたが、?年振りの職場に右往左往の毎日です。早く慣れてお役に立てるよう努めますので、よろしくお願いいたします。